

NO.330

1996 **3**

文化庁月報

CONTENTS

特集／新国立劇場完成迫る！

—— 竣工まで337日 ——

新国立劇場の概要、シンボルマーク決定	4
巻頭言 新国立劇場の竣工を1年後に控えて 遠山敦子	6
座談会 新国立劇場に期待する 五十嵐喜芳/木田 宏/小林玉夫/佐藤 信/牧阿佐美/西澤良之	8
芸術監督からのメッセージ、開場記念公演演目一覧 畑中良輔/島田 廣/藤田 洋	16
施設利用について、観客サービスとして	19

連 載

● 随 想／文化を担う女性の役割	岩淵潤子	20
● 地域からの文化発信／博物館・美術館紹介⑫	山梨県立文学館	22
● 後世に残そう我が県の文化財⑩／福岡県	大宰府跡、王塚古墳	25
● 芸術文化活動でまちづくり④	広島市「ひろしまオペラルネッサンス」	28
● 著作権法講座Q&A／12		31
● 著作物の再販制度を考える③	再販制度廃止の影響	32

ACA(Agency for Cultural Affairs)NEWS

・ 重要文化財の新指定(無形民俗文化財)	34
・ 平成8年度 著作権セミナー開催日程	41

舞踊の開場記念公演

島田 廣

21世紀を目前に、待望久しかった現代芸術の殿堂新国立劇場が、平成9年10月にオープンします。オペラ・舞踊(パレエ・現代舞踊)・演劇と各部門はただいま開場記念公演の準備で大わらわであります。

パレエは開場記念公演に三つの演目を用意しております。世界のパレエの伝統の総本山ともいべき、ロシア・サンクトペテルブルグ(旧レニングラード)のマリインスキー劇場との交渉で、有名なチャイコフスキーの三大パレエのなかから2演目、「眠れる森の美女」と「くるみ割り人形」を上演することにしております。

「眠れる森の美女」は編成も大きく古典パレエの典型のような作品。祝祭的な面も多分にあり、開場記念にはもっともふさわしいものと考えました。「くるみ割り人形」は、上演時期がちょうど12月のクリスマスのころ、パレエの背景もクリスマスの夜の少女の夢……ということもあって、これを取り上げました。御承知かと思いますが、この時期は国の内外を問わず「くるみ割り人形」のシーズン。新国立劇場にご家族ともども来場いただいて、新殿堂も舞台も見てほしいとの思いであります。あともう一本の作品は、日本の創作パレエとして石井潤氏振付の平家物語による「梵

鐘の聲」であります。いずれもオペラ劇場(大劇場)での上演であります。

現代舞踊は日本の洋舞の主流を成してきた、いわゆるモダンダンス。現代を生きる魂の喜怒哀楽や希求がテーマになります。開場記念公演ではマスターワークス(オペラ劇場)公演と著名振付家・中堅・新人によるパノラマ展A、パノラマ展B(ともに中劇場)を用意しました。

マスターワークスは、「梟の唄」(折田克子振付)「世界はパッハのように」(西田堯振付)で二回公演。パノラマ展Aは「リジェネレーション」(能美健志振付)「ラブソディ」(石井かほる振付)「リゴドン〜死の舞踏」(庄司裕振付)。パノラマ展Bは「春の祭典」(竹内登志子振付)「カウンターバランス〜現実をみるための空想」(米井澄江振付)「風市」(藤井公振付)、各中劇場三公演であります。

英国ロイヤルパレエの名花・故マーゴット・フォンティーンは21世紀は日本のパレエの時代といいました。また世界はいま21世紀はダンスの時代といっております。新国立劇場の舞踊はその先兵たらんと意気込んでおります。

御支援の程お願いいたします。

芸術監督からのメッセージ

開場記念公演に向けて

畑中良輔

オペラの誕生は1597年、フィレンツェのコルシ伯の館で上演されたペーリの「ダフネ」がその第一号とされています。しかし、この譜面は失われて現存していません。

その400年後の日本で、長年の懸案であった《新国立劇場》が、1997年10月に誕生します。現存する最古のオペラは、1600年、ペーリの「エウリディーチェ」であり、このころ日本では、出雲の阿国が四条河原で「かぶき踊り」として、歌、踊り、芝居などの要素を合わせた新しい芸能のかたちを創り出しています。西と東に、こうした総合演劇形態が期を同じくして生まれているのは偶然のことなのでしょうか。

フィレンツェに生まれたオペラは、やがて全ヨーロッパに広まり、各都市競って劇場ブームをつくり出しました。現在世界のどの都市もがオペラ劇場を持っており、その都市の文化のバロメーターとなっています。

おくれげながら(中国も韓国も台湾も国立歌劇場をもっている)、わが日本も重い腰をやっと上げ、世界の歌劇場に足並みを揃える

べく、目下準備に日夜大わらわですが、そのオープニングとしては、日本の歌劇場にふさわしい「日本のオペラ」として、まず最初に、團伊玖磨氏の「タケル・TAKERU」を開場記念公演第一作に据えました。

数々のいさおしをたてながら父にうとまれ、挫折ののち不死の白鳥として甦る悲劇の英雄を、雄大かつ抒情をもって描き上げた超大作です。続いてオペラの二大巨匠ともいべき、R・ワーグナーの幻想味溢れる「ローエングリン」を、ワーグナー直系のヴォルフガング・ワーグナー氏の新演出で、パイロイト方式により上演。年改めて、オペラ、演劇、映画界に君臨するF・ゼッフィレリ氏が、渾身の豪華絢爛、今回開場のための新プランでのヴェルディの「アイダ」を。この三本で日本の新国立劇場は世界の注目の中に開場を迎えます。刻々と迫るこのオープニングに備え、劇場関係一同緊張の中に、世界の中の「新国立劇場」を目指し、また国民の期待に充分応えられるよう頑張っている毎日です。

芸術監督からのメッセージ

新国立劇場開場記念公演演目一覧

オペラ

〈開場記念公演創作委嘱作品〉
「タケル・TAKERU」 全三幕
会場/オペラ劇場
公演日/平成九年一〇月一〇日(金)〜一三日(日)
四回公演
入場券発売予定日/平成九年四月一九日(土)
作曲/團伊玖磨 台本/團伊玖磨、小田健也
指揮/團伊玖磨、星出豊 演出/西澤敦一
美術/堀尾幸男 衣裳/緒方規矩子
合唱/東京混声合唱団 日本オペラ協会合唱団
管弦楽/東京交響楽団

「ローエングリン」 全三幕

会場/オペラ劇場
公演日/平成九年一二月二三日(土)〜三〇日(日)
七回公演
入場券発売予定日/平成九年六月一日(日)
作曲/リヒャルト・ワーグナー 指揮/若杉弘
演出/美術/ヴォルフガング・ワーグナー
衣裳/ヨルゲ・ヤーラ
合唱指揮/ノルベルト・バラツチュ
合唱/二期会合唱団
管弦楽/東京フィルハーモニー交響楽団

「アイダ」 全四幕

会場/オペラ劇場
公演日/平成一〇年一二月一五日(木)〜二四日(土)
七回公演
入場券発売予定日/平成九年七月二六日(土)
作曲/ジュゼッペ・ヴェルディ
公演監督/五十嵐喜芳 指揮/ダニエル・オーレン
演出/美術/衣裳/照明/フランコ・ゼッフィレリ
合唱/藤原歌劇団合唱団 管弦楽/新日本交響楽団

パレエ

「眠れる森の美女」 全三幕・プロローグ付
会場/オペラ劇場
公演日/平成九年一〇月二四日(金)〜二九日(水)
五回公演
入場券発売予定日/平成九年四月二〇日(日)
作曲/ピョートル・チャイコフスキー
改訂・振付/コンスタンチン・セルゲイエフ
指揮/ヴィクトル・フレドートフ
管弦楽/新星日本交響楽団

「くるみ割り人形」 全三幕
会場/オペラ劇場
公演日/平成九年一二月一八日(木)〜二二日(月)
五回公演
入場券発売予定日/平成九年九月六日(土)
作曲/ピョートル・チャイコフスキー
振付/ワシリー・ワイノネン
指揮/ヴィクトル・フレドートフ
管弦楽/東京フィルハーモニー交響楽団

〈開場記念公演創作委嘱作品〉
「梵鐘の聲」 平家物語より一
会場/オペラ劇場
公演日/平成一〇年二月一日(日)〜三日(火)
三回公演
入場券発売予定日/平成九年一〇月二五日(土)
作曲/石井真木 台本・振付/石井潤
管弦楽/東京交響楽団

現代舞踊

公演監督/三輝容子
「マスターワークス」
会場/オペラ劇場
公演日/平成九年一二月六日(土)・七日(日)二回公演
入場券発売予定日/平成九年九月八日(月)

魅力的な演劇を目指して

藤田 洋

ました。新国立劇場も、小劇場（400～450席の可動式）で、その先駆的方向も受け継いでいくべきだろうとは考えていますが、中劇場（1000席程度）では、大衆性をもった水準の高い現代演劇を基本に運営したいと思います。

開場記念第一弾の井上ひさし作「銅鑼をならした男」（渡辺浩子演出）は、築地小劇場の開場台図のドラをならした新劇史に残る名優・丸山定夫を主人公にした新作ですが、ここにも「新劇」の迫ってきた道程が描かれるはずです。

中劇場のもう一本は、シェイクスピアの四大悲劇の一つで、もっとも雄大なスケールをもつ「リア王」（鶴山仁演出、松岡和子訳）です。老王が荒野をさまよう姿に、現代日本の家庭問題、老人問題を重ねてみたいという演出のねらいがあります。

小劇場はつかこうへい作・演出による新作「鯖街道」。日本・中国・ロシアをまたぐスケールの大きな作品構想です。

現代演劇が国立の劇場に組みこまれるのは、開場以来、日本では初めてのケースになります。それだけに意義おかく、大きな責任を痛感しております。

ただ、現代演劇と一口にいっても、その内容は幅広く、多岐にわたっております。私事になりますが、昭和20年代の「新劇」には、戦後の自由になった社会のなかで刺激的でありましたし、欧米演劇が知的な欲求も満たしてくれて、高揚した充実がありました。あの新鮮な感動を享受した時代を忘れることはできません。この30年間で、現代演劇は大きく変化しています。開場記念の演目に島崎藤村の大長編を劇化した「夜明け前」（村山知義脚本、木村光一演出）を選んだのは、昭和9年初演になる新劇古典が今日の、とくに若い観客にどのように受け止められるのかという試金石になりましょう。

この30年間、小劇場運動の華々しい活動によって、数々の実験が繰り返し試みられてき

施設利用

新国立劇場では、現代舞台芸術の振興、もしくは普及を目的とする事業の利用に供するため、劇場施設を一般に貸し出すこととしています。その基本的な方針は以下のとおりです。

- (1) 使用時期
平成一〇年四月より、新国立劇場の主催公演に支障のない範囲で一般に貸し出すこととします。
- (2) 使用基準（使用の許諾）
劇場設置の目的に鑑み、次の三つの種類に大別します。

- a、オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇、ミュージカル、その他の現代舞台芸術の公演
- b、国、公共団体等の主催による公的式典等
- c、その他理事長が適当と認めた催し

なお、使用の許諾の判断にあたっては、芸術監督の意向が反映できるシステムを取ることにしています。

- (3) 申し込み受付期間
使用年度ごとに、オペラ劇場は二年前、中劇場は一年半前、小劇場は一年前から受付を開始することとします。
- (4) 施設使用料
国立劇場の使用料を基準とし、民間各

施設の使用料も考慮して算定する方向で検討中です。

- (5) 付帯設備使用料
付帯設備使用料は、一部の特殊設備使用料を除いて、原則的に劇場使用料に含まれることとします。また、舞台技術関係の基本的な人員及び劇場運行に要する基本的な人員のために要する経費も、劇場使用料に含まれることとします。
- (6) 施設使用料の割引
現代舞台芸術の公演の場合、舞台稽古、休演日の使用料を半額とするほか、長期使用の場合、使用期間に応じて割引の措置を講じます。

- (7) 使用時間区分
午前、午後、夜間等の時間区分料金体系を適用します。
- (8) 連続使用の制限
現代舞台芸術の公演には、原則的に連続使用の制限を設けないこととします。

現代舞台芸術の公演には、原則的に連続使用の制限を設けないこととします。

観客サービス

新国立劇場では、平成九年一〇月の開場を控え、観客サービスの一環として、「新国立劇場友の会（仮称）」を発足いたしました。これは、「現代舞台芸術とのよりよい出会いの場の創造」を目指す観客会員制度です。劇場と観客との緊密度の高い交

流を図れることから、観客に国民に開かれた「新国立劇場」の大きな根幹を担うものと考えています。

会員は優先的かつ簡便にチケットを取ることができるメリットを受けることができます。

友の会の会員資格は一年間で、初年度は本年一〇月より一万人の会員の募集を予定しています。

そのほか、それぞれのジャンルごとに半年ないしは一年間の全ての公演について、毎回決まった座席で観賞していただくという優先的チケットシステムなどを検討中です。

「梟の唄」	振付／折田寛子
「世界はバツハのように」	振付／西田堯
「パノラマ展」	Aプログラム
会場／中劇場	
公演日／平成九年一二年二日（金）～三日（日）	
三回公演	
入場券発売予定日／平成九年九月八日（月）	
「リジェネレーション」	振付／能美健志
「ラプソディ」	振付／石井かほる
「リゴドン」	振付／庄司裕
「パノラマ展」	Bプログラム
会場／中劇場	
公演日／平成一〇年一月七日（水）～九日（金）	
三回公演	
入場券発売予定日／平成九年一〇月二五日（土）	
「春の祭典」	振付／竹内登志子
「カウンターバランス」	振付／能美健志
「風市」	振付／藤井公
「演劇」	
（開場記念公演制作委嘱作品）	
「銅鑼をならした男」	
会場／中劇場	
公演日／平成九年一〇月二日（水）～二日（水）	
二回公演	
入場券発売予定日／平成九年五月一八日（日）	
作／井上ひさし	演出／渡辺浩子
原作／島崎藤村	脚本／村山知義
演出／木村光一	
「夜明け前」	
会場／中劇場	
公演日／平成九年一二月八日（月）～二四日（水）	
二回公演	
入場券発売予定日／平成九年九月二日（日）	
「開場記念公演制作委嘱作品」	
「鯖街道」	
会場／小劇場	
公演日／平成九年一二月一日（火）～二日（日）	
四回公演	
入場券発売予定日／平成九年九月一四日（日）	
作・演出／つかこうへい	

表紙解説 史跡 福山城

福山城は、北方警備（外国船対策）を目的とした幕命により、松前家第17世崇廣（第13代藩主）が安政元年（1854）に築造した城で、本丸に三重の天守（櫓）を、二の丸に3基の二重櫓を有したほか、三の丸に7座の砲台を設けるなど、特異な意匠をもった我が国最後の日本式城郭です。

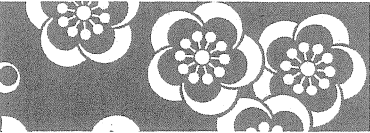
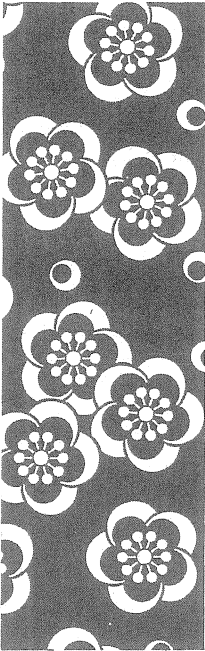
明治維新期に二度の戦火を経験しながらも、なお厳然として城下を威圧していた福山城でしたが、明治7年（1874）に開拓使によって不要建物の解体撤去、内濠・外濠の石垣の撤去などが行われ、三層天守、本丸御門、本丸御殿（後年度に解体）を残すだけの城跡となりました。昭和10年（1935）に国指定の史跡となりました。

町民に親しまれ大切に保存されてきた福山城は、町の象徴であった天守閣は延焼により残念ながら焼失してしまいましたが、焼失から11年後の昭和35年に天守閣の再建がかない、往時の姿を今にとどめています。昭和51年度から保存整備が進められ、現在、遺構確認調査や濠の石垣の整備などが行われています。

戦前から桜の名所として知られていた松前は、例年、5月1日から20日の期間にさくら祭が開催されますが、この時期、全国各地から名木さくらを集めた“桜見本園”をはじめ、城内の250種、8,000本の桜が咲き誇り、天守閣や重要文化財の本丸御門と濠間の桜が織り成す美しさは格別です。また、祭り期間中は郷土芸能などの各種のイベントがくりひろげられ、町民はもとより数多くの観光客で賑わいます。

天守閣や本丸御門をバックに演じられている松前神楽は、旧松前藩がかつて城内で行わせたことから「お城神楽」とも呼ばれ、江戸時代に盛んに行われてきたもので、「翁舞」や「四箇散米舞」などの神事からなり、今なお日本海沿岸や道南など広い地域で伝承されています。

（北海道教育庁生涯学習部文化課主査 伊藤敏彦）



編集後記

現代舞台芸術の殿堂、新国立劇場の柿落としまであと1年半ほどになりました。私もクラシックファンの一人として、どんな公演が行われるのか大変楽しみにしています。

実は私は、オペラの生の舞台をまだ一度も観たことがありません。一度は見に行きたいと思いつつも、チケットの値が張るし、公演時間が長いし、外国語公演が多く理解できないのではないかしら、と躊躇している間に、いつもチケットが売り切れてしまうのです。

クラシックファンの中でもオペラファンは、一種独特の「ハマリ」方をするそうです。例えば私の知人のA氏はベルディのオペラにハマっていて、全楽譜を暗譜している（！）だけでなく、演出の細部にも熟知し、つい先日には、とうとうオペラを観るために米仏旅行に行ってしまいました。

演劇、音楽、美術等全てを含んだ総合芸術と称されるオペラには、人をそれだけのめり込ませる魅力があるのでしょうか。私は、その魅力にいきなりのみ込まれるとこわいので、ちょっとオペラシティへ絵を見に行き、その傍りに新国立劇場でオペラのゲネプロをふらっとのぞいて、少しずつオペラに親しんでゆく、という方法を探りたいと思っているのですが……。

（ま）

文化庁月報 3月号 (通巻330号)

平成8年3月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03(3571)2126

販売 03(5349)6666

振替口座 00190-0-161

印刷所—㈱行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価530円（本体515円）送料76円

年間購読料6360円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

㈱きょうせい営業第一課宣伝係

電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)

©1996 Printed in Japan

ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。